

I-ON Communicationsのe-bookフレームワークを導入 … 教育出版リーダーシップ、e-book市場でも発揮する

差別化されたe-book コンテンツで スマート教育出版市場をリード



KYOWONグループは(株)KYOWONと(株)KYOWON KUMON、(株)KYOWON L&C、(株)KYOWON 旅行、(株)KYOWON HIPER GENTなど5つの系列会社を保有し、韓国全国に2万人程度の販売専門組織と約1万3千人の家庭教師と専門編集者を率いている。生涯教育、生活文化、旅行、レジャーなど多様なサービスを提供している(株)KYOWON（以下、キョウオン）は、さらに電子書籍事業にも参入、新たな成長動力を創り出している。

電子書籍分野でも高品質コンテンツを提供

キョウオンの最初の電子書籍がアイパッド用幼児向け教育コンテンツ、「イソップ劇場」である。イソップ寓話を3Dアニメーションで伝える手法で、子供たちの興味をそそり、感情と情緒を浄化させ、子供を感情豊かに育てるようにした。

キョウオンの教育研究本部長兼常務理事のハン・ジンウン氏（以下、ハン氏）は、弊社は、教育出版分野での売上高が年3,600億ウォン（およそ360億円）に及ぶ韓国最高の企業です。高品質の教育コンテンツで顧客のニーズを満たしているうえ、電子書籍事業も高品質のコンテンツを提供することで‘さすがキョウオン’という評価を目指しています。」と語った。

キョウオンのイソップ劇場は、Flashを使って単純な動きを繰り返す一般的な電子書籍とは違う。3Dアニメーションを活用してそれぞれの独立した動きができるようにした。さらには、利用者が登場人物と背景を操作できるので、興味をそそられる。

キョウオングループ(会長:ジャン・ピョンスン www.kyowon.co.kr)は1985年に教育出版企業としてスタートし、生活健康、レジャー、ホテル分野へと事業を多角化しながら、超一流の教育生活文化企業に成長している。創立30周年を迎える2015年には「1千万顧客、売上3兆ウォン(約3千億円)」を達成するという目標を持つ(株)KYOWONは主要事業を強化し、新たな成長動力を創出することに力を入れている。その一環として、キョウオンは新たにe-book事業に進出し、この分野でも教育出版分野のリーダーシップを発揮しつづけていくと自信を示している。

キョウオン、e-bookフレームワークを導入



▲キョウオンイソップ寓話シリーズのオープニング画面

英語と韓国語で提供され、幼児向けの英語学習の教材としても負けない。

登場人物と背景が生動感あふれていて、様々なゲームもできるため、幼児が楽しみながら勉強ができる。

アイパッド用イソップ劇場（以下、イソップ劇場）は、39巻からなる「イソップ劇場と哲学童話」全集と10枚のDVDで制作されたアニメーション（39編）が基本セットになっている。従来のアニメーションに3Dレンダリングを加え、アイパッドの環境に合わせてモビリティ機能と娯楽機能を強化した。

ハン氏は、「イソップ劇場はアニメーションの電子書籍化というレベルを超え、アイパッドで楽しめる新しい教育コンテンツを創出したのと同様です。さらに、利用者とのコミュニケーションを通じてさらに多様な楽しみを提供できるようなエンターテインメントを適用しました。」と説明した。

技術力・創意に満ちたI-ON Communicationsを選択

イソップ劇場には I-ON Communications（以下、I-ON）の「e-bookフレームワーク」が適用された。このフレームワークは本やビデオなど、様々な形で存在している多様な教育コンテンツを抽出、それぞれのコンテンツをデジタル方式で処理し、統合的に管理できる。

こうして管理したコンテンツはお客様のニーズに合わせたユーザビリティとデザイン性を重視し、I-ONで開発したオブジェクトモーションモジュールとインタラクション機能、XML基盤のインタフェースをもとに様々なモバイルデバイスで使える。

これにより、コンテンツを多様なデバイスで活用(Multi Source Multi Use)することができる上、コンテンツをリサイクルできるので製作費も大幅削減、統合的に管理された様々な種類のマルチメディアコンテンツを企業が資産化できる。

最近、モバイルへの関心が高まり、モバイル関連のソリュ

ーションやフレームワーク、ミドルウェアが先を争って発売されている。その中でI-ON社を選択した決め手は、会社の堅実な会社の財政状態と優れた技術と、高く評価されたコンテンツの企画力にあった。

プロジェクトを進める過程においても、I-ONとは息ぴったりだったと評価した。「コンテンツを持つキョウオンと技術を持つI-ONが、お互いに意見を尊重し合いながら良いモノづくりに反映することで、良い商品を完成することができました」とハン氏は語り、「現在、2巻と3巻の作業中であり、1巻との差別化を図るために様々な試みを行っています。この過程にもI-ONが積極的に参加し、高品質の教育コンテンツを作っているし、モバイルラーニング事業は世界的にも始まったばかりの段階ではありますが、大きな広がりが見込まれます。両社の強いパートナーシップをもとに、この市場のリーダーシップを発揮することができると確信しています。」と語った。

高品質コンテンツで顧客満足度を高める

イソップ劇場はAppStoreの韓国国内教育分野でダウンロード数1位、売上基準1位を達成した。今もランキング上位をキープしている。教育・図書分野のアプリの料金は通常0.99~1.99ドルの水準だが、イソップ劇場は7.99ドルの多少高く設定されているにもかかわらず、質が良いコンテンツであるからこそダウンロード件数の面でも上位を取っている様子。

ハン氏は、「最初電子書籍を企画する時は悩みが山ほどありました。1,000ウォン（およそ100円）前後の安くて単純なコンテンツを提供するか、高くても利用者の満足度を高める商品を提供するか。などなど。キョウオンの読者が選ぶ図書を分析してみたら、値段よりは質が良い本を買うことが分かりましたので、クオリティが高い電子書籍なら、成功の可能性があります。」と説明した。

実際もその通りで、イソップ劇場のAppStore売上高やダウンロード件数1位を獲得していることから、キョウオンの高品質戦略が成功していることが証明されている。掲示板や体験アンケートを見ても利用者はコンテンツの品質に相当満足している。

現在、キョウオンは電子書籍事業と共に既存の全集図書がシナジー効果を出せる方法を工夫している。全集図書と電子書籍を合わせて活用すると、教育の効果を高められるという。長期目標としては、これを家庭訪問学習事業にも適用し、家庭訪問教師がアイパッドを使って教育ができるようにする計画も立てている。



“高いレベルのモバイルコンテンツので 教育出版事業リーダーシップ強化”

Q. アイパッド用電子書籍事業を始めた背景は？

キョウオンは超一流の教育生活文化企業を目指す企業理念で、新たな成長の原動力になる事業を積極的に発掘している。その一つの分野が電子書籍である。タブレットの全盛期を迎え、電子書籍市場は急速に成長を続けている。特に教育コンテンツ分野での成長傾向がとて強い。キョウオンは、教育出版専門企業であるだけあって、今まで築いてきた高品質の教育コンテンツを基盤としてマルチメディアとエンターテインメント機能を加え、モバイルコンテンツ分野でもリーダーシップをとるという目標を持っている。アイパッド用電子書籍はそのための第一歩でもある。

Q. 競争会社との違いは何か？

今までの電子書籍はFlashを使って単に図書を見せる形であった。しかし、イソップ劇場は今までにない新しい電子書籍のカたちとも言える、3Dアニメ手法で、より多様な教育資料として使える。例えば、利用者が登場人物や

背景をタッチすると、それぞれが別々になっている動きの鮮明さと適用されているゲーム機能が利用者を興味をそそられる。

Q. I-ONのe-bookフレームワークを選んだ理由は？

イソップ劇場はこれまで出版された電子書籍とは違う、差別化されたコンテンツを提供しようとした。そのためには、ユニークなアイデアと独創的な企画力が必須。I-ONはこういう面でとても優れていた。また、金融、通信分野などでモバイル事業を幅広く展開してきた経験があるし、企業が安定的に運営されているため、サポートが徹底していた。それが高い遂行能力へもつながっていると判断したのでI-ONを選択した。

Q. 製品発売後の効果は？

イソップ劇場は他の製品に比べ、多少高めの料金で設定された。一般的に教育コンテンツアプリの単価が0.99～1.99ドルなのに、イソップ劇場は7.99ドルの高価の製品でもある。利用者たちは高価ではあるが、その程度の価値があるものだと評価している。



ハン・ジンウン氏
| (株) KYOWON 教育研究本部長兼常務理事

このように、キョウオンは高品質のものを売っていることを証明しているし、キョウオンは電子書籍分野でもリーダーシップを確実に築いていると確信している。

Q. 今後の計画は？

現在、アイパッド用イソップ寓話2、3巻を制作している。中期・長期的には弊社が持っている多種多様なコンテンツを電子書籍のかたちで提供できるように制作準備中である。なお、家庭教師が使う教材もスマートパッドを活用できるようにし、学習効果のアップを目指している。